

国勢調査の実施に寄せて

— 払われた労苦への献辞 —

行政管理局 堀 江 侃
統計企画課長補佐

5年に一度実施される国勢調査は、去る10月1日を調査期日として全国の地域で全ての住民を対象として行われた。この国勢調査のために費いやされた国費は200億円以上といわれ、動員された統計調査員は約60万人に及ぶという。

このこと以上に、国勢調査の円滑な実施のために都道府県や市町村の統計関係者によって払われた努力は、測り知れないものがあったであろう。過去数か月にわたって、実施のための体制づくりに奔走し、調査区の設定や統計調査員の選任等のための事務に忙殺され、説明会を開き、広報活動を行い、準備事務の万全を期して神経の消耗を重ねた統計関係者が多かったことは確かである。

しかし、統計調査法に関する一般の原則からいえば、その準備のために払われる努力よりも、その後における調査票の回収、審査、集計の過程が一層重要であり、より多くの労力が投入されることとなるのも事実である。今回の国勢調査に関するジャーナリズムの論調は、平均的にみれば調査への協力を呼びかける好意的なものであった。しかし、他方では、プライバシーとの関係において不安と懸念が表明され、特に投書欄には、一般国民の疑問が多く掲載された。従って、恐らく、統計調査員や市町村に対しては、国勢調査に対する多くの質問や不安が寄せられたことであろうと推定できる。国勢調査の場合にあっては、全ての調査票の回収がその性質上至上命令となるであろうから、その説得にあらゆる努力が払われたであろう。また、特に今回から採用されたマークシート方式による記入に対しては、神経質なまでの審査が行われたであろう。一世帯4名連記の調査票であったから、その積み上げられた調査票の量は、どこの市町村の場合であっても、想像にあまりあるものであったと容易に推測できる。審査し、集計する事務は、神経を消耗させ、時間との闘いであったとしても、早期に正確な国勢調査の結果を公表するための作業が、あるいは今も続けられているであろう。

このように、恐らくいずれの都道府県・市町村においても、今回の国勢調査の実施に当たっては、全力を挙げたの対応がなされてきたと思う。統計関係者の一人として、それぞれの立場で、任務を遂行された方々に心からその労をねぎらいたい。

今日、社会経済の動向は極めて流動的で、統計に対する期待と要請も、かつてなく重く強い。統計が脚光をあびる時代といってもよいのかも知れない。統計の本質は、一定の集団の特質を数字によって把握することにあるという。だから、統計は、その正確性ないし真実性を

生命とし、論理的思考や意志決定上の不可欠の基礎となる働きをすといわれている。確かに、社会経済の動向を把握し、分析するために求められる統計は、国民生活のあらゆる分野にわたり、その重要性を否定する者はいない。

このため、統計の整備を目指して、毎年、国、地方公共団体を通じて約1,000にのぼる統計調査が実施されている。これらの統計調査の中には、一部に郵送調査方式がとられているとはいえ、その大部分は国勢調査と同じく調査員調査方式がとられており、先に述べた国勢調査の場合と同様に、関係者による真剣な努力が払われていることは、まぎれもない事実である。いや、多くの統計調査の場合には、国勢調査以上の汗と労苦が特に現地における関係者によって払われているともいえるのである。なぜならば、国勢調査の場合には、多くのマスコミによってとりあげられ、その歴史が語られ、その目的が強調され、統計関係者以外にも理解が得られやすいという面をもっている。他の統計調査の場合は、その全てを現地における統計関係者の手にゆだねられているのが実情だからである。世帯や企業を対象とし、より詳細にその実態を把握しようとするれば、プライバシー意識あるいは調査負担感を強く刺激するのは当然である。それらの疑問に対して、説得できる力をもつ者は、直接調査対象者と接触する現地の統計関係者を除いて存在しないからである。なおかつ、統計の生命である真実性を保証しうるのも、現地の統計関係者の努力以外にあり得ないのである。わが国の統計の発達、言葉をかえれば、今日要請されている統計の整備は、その成否の全てを現地における統計関係者の努力に負っているといえるのである。このことは、統計が統計調査によって作られ、統計調査は調査対象となった者の善意の協力と、現地の統計関係者の努力なしには実施しえないという当然のことを意味している。しかし、この当然の原則は、特に統計作成機関としての国の段階で、忘れられていないであろうか。なぜなら、今日、統計に関する需要の拡大と対応して各種の統計調査が実施されながら、他方では統計調査環境の悪化がより深刻化しようとしている。統計の早期公表が各方面から指摘されながら、2年以上後にならなければ作成されない統計が多く存在する。遅々として実現しない統計行政上の諸問題の改善を待ちつつ、今日の統計を支えているのは、現地統計関係者の日常の努力であるというべきである。これが、国勢調査の実施に当たり現地統計関係者の労苦をねぎらう献辞を寄せるゆえんである。